



荒川沿いの崖につくられたカワセミの巣（写真左の穴）と子育て中の雄のカワセミ（撮影：木島 宏氏）

## かわさく No.71

### CONTENTS

開催案内：令和3年度特別展「すみか～身近なすみかを見てみよう～」	2
学芸員コラム：「災害の痕跡を示すモノリス」	4
開催報告：令和3年度テーマ展「天然氷」	5
開催報告：春期企画展関連イベント「海苔づくり体験」	5
開催報告：「荒川の石図鑑づくり」	6
開催報告：「オタマジャクシを観察しよう」	6
開催報告：「光る泥だんごづくり」	7
展示紹介：蔵出しコーナー「釣竿（和竿）」	7
イベント情報コーナー 8・9・10・11月	8



開催案内

## 令和3年度特別展

# すみか～身近なすみかを見てみよう～

開催期間:令和3年7月10日(土)～8月31日(火)

会場:本館第2展示室・第1展示室スロープ展示(サテライト展示)

皆さんは「すみか」と聞くと、どんなものを想像しますか?生き物のすみかは実に多様です。昆虫、鳥類、哺乳類など、体の大きさや生態、生息している環境によって、様々な形や大きさ、材料の違う、多種多様なすみかがあります。

ところで、その「すみか」自体を、私たちはいったいどれくらい知っているのでしょうか?私たちに比較的身近な生き物でも、名前や姿は知っている、そのすみかがどのようなものなのか知っている人はそう多くないはずです。

今回の特別展では、そんな私たちに身近な野生の生き物でも、意外と知られていないすみかの多様性について紹介する展示を企画してみました。この展示を通じて、生き物の名前や身体的な特徴のみならず、生活している「家」、すみかについてもより詳しくなっていただければ幸いです。

### 特別展の主なみどころ

(1) 今回の特別展では、夏休みの自由研究でも調べてみたくなるような、身近な生き物のすみか(巣)を中心に紹介しています。すみかを季節ごとに分けて紹介しているだけでなく、すみかをその特徴を基に、大きく下記の5つのパターンに分けて紹介しています。

- 育 … 子を育てるためのすみか
- 隠 … 身を隠すためのすみか
- 眠 … 冬眠などで眠るためのすみか
- 休 … 休むためのすみか
- 狩 … 餌を狩るためのすみか

(2) 「身近な」生き物のすみかの例として、当館の敷地内や、側を流れる荒川でも観察することのできるすみかも紹介しています。また、当館のマスコットキャラクターであるカワシロウのモデルとなった鳥、カワセミのすみかも紹介しています。

(3) 博物館に越冬のためにやってきたコウモリの話や、哺乳類のアナグマのすみかを多数の生き物が

使用していたというちょっと変わった事例から、つくられる場所によって材料が違うカラスの巣、拾ってきたドングリから虫が出てくることが多いのはどうしてかなど、誰しもが一度は不思議に思ったことや経験したこと、すみかにまつわるビックリネタまで、すみかからわかる様々な情報を、実物や模型、映像資料、生き物の剥製などを用いて紹介します。

### 関連イベント

#### ①昆虫のすみかを探そう!

～昆虫博士とかわはく探検～

日時: 8月7日(土)

①10:30～11:30 ②13:30～14:30

講師: 井上 大成 氏 (多摩森林科学園 教育的資源研究グループ長)

#### ②学芸員による展示解説

日時: 7月23日(金・祝)、8月21日(土)

①11:30～ ②14:30～ (各回30分程度)



トビケラの巣



巣から顔を出したムササビ



開催案内

# スロープ展(サテライト展示) 生き物のすみかを探そう

開催期間: 令和3年6月24日(木)～9月26日(日)



当館敷地内で採集したジョロウグモの巣



木に開いた穴を「すみか」につかう生き物といえば？  
キツツキかな？ムササビかな？どっちかな？

特別展のサテライト展示となる第1展示室スロープ展示では、すみか(巣)がつけられる場所の特徴やアリジゴクの捕まえ方(採集方法)、クモの巣を標本として綺麗に採集する方法等を写真パネルで紹介します。また、クモの巣とそのクモの巣をつくったクモの組み合わせを考える、「クモの巣クイズ」のコーナーも用意しています。



当館敷地内で観察されたアリジゴク(ウスバカゲロウの幼虫)の巣と巣から捕まえたアリジゴク



(研究交流部 羽田武朗・藤田宏之、埼玉県立自然の博物館 環境担当 奥村みほ子)



## 災害の痕跡を示すモノリス

日本は自然災害の多い国。多くの火山噴火・地震・津波・豪雨などを経験してきました。書物に災害として記載のあるものもあれば、それらに残っていない有史以前のものもあります。しかし文字の記録がなくても、大地に記録されていることがあります。地面の下の土の標本のことをモノリスといいます。当館では折りに触れてモノリスを展示しています。その中に、降り積もった火山噴出物や津波の堆積物などの様子がわかるものがあるのでご紹介したいと思います。



左の写真は北海道野付郡別海町で採取したモノリスです。

下の方ほど時代が古く、上の方ほど新しい時代で、褐色と黒が繰り返しています。褐色の部分は堆積した火山噴出物が「土壌化」しておらず、黒いところは降り積もった火山噴出物の上にだんだんと植物が育ち「土」になった部分です。Aは摩周岳のおよそ6500年前の、Eはおよそ200年前の雌阿寒岳の火山噴出物が堆積したもので、B～Dはその間に堆積した火山灰や軽石の層です。このように地面の下の様子から火山活動と土の生成の歴史がわかるのです。



2011年の東日本大震災のことは記憶に新しいと思いますが、東北地方太平洋側の津波も繰り返し発生していました。

左の写真は岩手県宮古市田老で採取したモノリスです。海のすぐ近くですが、堆積している石が角ばっていることから、津波が山を駆け上がり、引いていく際に山の石を削り取り海辺に堆積させていったと考えられます。Aは貞観の大津波（869）、Bは慶長の大津波（1611）で、地表面が2011年に堆積したものと思われる。Aの下にも同様の石の堆積が複数確認でき、津波が繰り返し起こっていたことがわかります。

また、今年の6月3日は多くの犠牲者を出した雲仙普賢岳の火砕流から30年でした。この火砕流がよく知られていますが、1990年夏の活動活発化から噴火活動の終息宣言が出された1996年までの間に火砕流は度々発生していました。今年の5月～6月にかけてのモノリス展示の際には雲仙普賢岳の火砕流堆積物の厚さがわかる全長約2mのモノリスも加えました。

大地の記録は時に過去の自然災害を伝承すると言えるかもしれません。

※上記2枚のモノリスはいずれも縦約1.4m



リバーホールでのモノリス展示（2021年5～6月）

右端のモノリスは長崎県島原市で採取されたもので、雲仙普賢岳の火砕流が繰り返し発生していたことがわかる。

（研究交流部 森圭子）



開催報告

## 令和3年度テーマ展 天然氷

開催期間:令和3年4月29日(木・祝)～6月20日(日)

2か月近くにわたって開催した「天然氷」展が終了しました。今春の企画展「海苔・川苔・のりのり！」は、コロナ禍で長期の臨時休館となりましたが、今回のテーマ展は幸い予定どおりに開催することができました。ただ「天然氷切り出しの思い出を語る」などの関連イベントがすべて中止になってしまったことは残念でなりません。

展示の構成は、「埼玉県内の製氷今昔」「県外の製氷ー軽井沢ー」「天然氷の歴史」「製氷の神事」「氷の利用」の5つです。このうち最も力を入れたのが県内の状況でした。現在は皆野町の阿左美冷蔵が県内唯一の天然氷製造業者ですが、過去にさかのぼると、秩父地方だけでも17カ所、さらに平野部にも各地に製氷池のあったことがわかりました。事前の調査で大きな成果を上げることができたとともに、地球温暖化の影響を強く感じたものです。

阿左美冷蔵の製氷作業は、真冬の風物詩として

テレビや新聞で紹介されていますが、取り上げられるのはメインの切り出し作業です。そこで当館では、10月以降に行われた一連の作業をビデオで記録し、編集して会場中央に設置したモニターで流すことにしました。これが非常に好評で、アンケートにも「氷作りの大変さがわかった」との意見が多くあり、またお子様が熱心に画面を見つめている様子もしばしば目にしました。

(研究交流部 大久根 茂)



開催報告

## 春期企画展関連イベント 海苔づくり体験

開催日:令和3年3月27日(土)

本イベントは当初、2月11日に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休館のため、2度の延期を経て3月27日ようやく実施へこぎつけました。

食卓で馴染み深い海苔ですが、その原材料や製造工程はあまり知られていません。本イベントでは、切る、抄く、干す工程を体験してもらいました。原材料の生ノリは、残念ながら旬を過ぎてしまったので、事前に取り寄せて冷凍保存したものを使用しました。

海で採れるノリは、川から海に流れ込む養分で育ち、川と無関係ではありません。次に海苔を食べるときには、今回体験した生ノリの匂いや手触りのことも思い出してもらえたらいいと思います。



(研究交流部 三瓶ゆりか)



開催報告

## 荒川の石図鑑づくり

開催日:令和3年4月10日(土)

4月10日(土)、新型コロナウイルスの影響によって二度ほど延期していたかわはく体験教室「荒川の石図鑑づくり」を開催しました。

本体験教室は荒川河川敷で見つかる石の図鑑を作る教室なのですが、みなさんは石と聞くと何を思い浮かべますか? 水切りで遊んだ時の丸くて、平べったい灰色の石(砂岩)を思い浮かべた方が多いかもしれません。歴史や地学が好きな方ですと、セメントの原材料としても有名であり、渋沢栄一も一目おいた石灰岩や、宮沢賢治も訪ねた長瀬にある岩畳の結晶片岩を思い浮かべた方もいるかもしれません。

ここ、川の博物館の近くにあるかわせみ河原でも砂岩や石灰岩、結晶片岩、そのほか様々な石を見つけることができます。

今回、『荒川の石図鑑づくり』イベントに参加してくださった方々には、事前にどのような石を拾うことができるのか、見分け方を食べ物に例えたりしながら解説しました。その後、河原に移動し、参加者の

方にも実際に石を拾っていただきました。

講座室に戻った後、すぐに石を洗ってから、こちらで事前に用意しておいた木の板に接着剤で貼り付けてもらいました。石の名前がわからないときはスタッフに質問をして確認、最後に石の名前のラベルを貼り付けて完成です。参加者の方々は思い思いに石図鑑を作っていました。

写真はその一例です。皆さんもこの夏、自由研究の一環として石図鑑づくりにチャレンジしてみてください。(研究交流部 室井美穂)



開催報告

## オタマジャクシを観察しよう

開催日:令和3年4月18日(日)

オタマジャクシは梅雨時の田んぼでたくさん見られるイメージですが、本イベントは4月ですのでまだ田植え前の静かな時期です。しかしまだ冷え込みの厳しい早春に産卵し、4月にはすでに成長して活発に動き回り、餌を食べている種もあります。当館周辺でも3種のカエルが産卵を終え、卵が孵化してオタマジャクシを観察できました。

オタマジャクシはどれも同じように見え、同定が困難な場合がありますが、生態の違いやその種ならではの特徴を観察できます。今回はヤマアカガエル、アズマヒキガエルを比べてみました。ヤマアカガエルは成長がゆっくりで、しかも大きくなってからカエルになります。アズマヒキガエルはオタマジャクシの期間が短く小指の先ほどの大きさでカエルになり、全身が真っ黒です。

見分けが難しいオタマジャクシですが、ぜひ探して、小さな容器に入れるなどしてじっくり観察してみましょう。(研究交流部 藤田宏之)



ヤマアカガエルのオタマジャクシ



アズマヒキガエルのオタマジャクシ



## 開催報告

# 光る泥だんごづくり

開催日:令和3年4月17日(土)

子供たちの遊びの定番「どろだんごづくり」。小さい頃に作って遊んだ人も多いのではないのでしょうか。土をさわるのは何となく楽しいですよ。子供たちの身近にある土は必ずしも泥だんごに向いているわけではないと思いますが、素晴らしい出来栄の泥だんごに圧倒されることがあります。そんなすごい泥だんごを作っていたかもしれない子供や大人を対象に「光る」泥だんごづくりを開催するのは常に緊張するのですが、その緊張をひた隠しながら(?)実施しました。

今回は「荒木田土」を使ってこねるところから磨いて仕上げるところまでを2時間の講座で行うというプログラム。2時間で行うには、土と水の比率が重要なので、きっちり量るところから始めました。途中、大きくひび割れるだんごに参加者は心配そう。私も内心やや不安になる気持ちを押しやり、「大丈夫!」とお声がけしました。最終的には皆さんちゃんと丸

くてしっかりとした泥だんごになってホッとしました!あとは削って磨く作業。表面の仕上がり具合によってツルツル程度は異なりますが、形を整えて磨くと、すぐにテカテカと光り始めます。今後、家の周辺の異なる土で試してみると、自由研究になるかもしれませんね。土のことを学びつつ、またチャレンジしていただけると嬉しいです。(研究交流部 森圭子)



## 展示紹介

# 蔵出しコーナー「釣竿(和竿)」

展示期間:令和3年6月24日(木)~10月31日(日)予定

「蔵出しコーナー」は、令和2年度に第1展示室の一部を改修し、収蔵庫に眠っている資料の公開の場として新設したものです。

今回展示したのは、和竿とも呼ばれる各種の竹製釣竿。平成8年(1996)、当館オープンの際に川口釣竿工業組合から購入したものです。川口市(旧鳩ヶ谷市を含む)の芝川流域は、かつて全国的な釣竿の産地として知られていました。その発祥は江戸時代にさかのぼり、芝川の河川敷に釣竿の材料に適した良質な布袋竹が群生していたためとされています。

長さ1間(約180cm)のワカサギ継ぎ竿から、長いものでは4間1尺(約750cm)のアユどぶ竿まで種類はさまざま、今回は22点の収蔵資料の中から、コイ用、ヘラブナ用、ハヤ・ヤマベ用、ヤマメ・イワナ用など11点を厳選して展示しました。

当時組合に所属していた釣竿職人が製作したもので、漆工品と呼べるほど見ごたえがあり、なかでも10本継ぎのタナゴ竿は、小さいながら螺鈿細工をほ

どこした見事なものです。

天然素材のもつ温もりと芸術的な美しさが評価され、埼玉県伝統的手工芸品、国の伝統工芸品に指定されていますが、カーボンロッドなどに押され、最盛期には200人もいた職人が、現在は5人となっています。

(研究交流部 大久根 茂)



### 8月

7/10/土~8/31/火

特別展「すみか〜身近なすみかを見てみよう〜」

1/日

かわはく開館・水の日記念イベント

時間：①10:00~12:00 ②13:00~15:00

内容：楽しいイベントを用意しています。

6/金

船が動くよ！木のおもちゃを作ろう

時間：①10:00~11:00 ②12:00~13:00

③14:00~15:00 定員：各回10名程度 ☑

内容：大水車と同じ埼玉県産の木材を使って、木工職人さんに教わりながら動くおもちゃを作ります。

7/土

特別展開連イベント

「昆虫のすみかを探そう！〜昆虫博士とかわはく探検〜」

時間：①10:30~11:30 ②13:30~14:30 定員：3組10名以内 ☑

内容：昆虫博士と一緒にかわはくの敷地内とその周辺で生き物のすみかを探しましょう。

15/日

かわはく研究室

「田んぼの小さな生き物」・「ミジンコを観察しよう」

時間：13:30~15:30

内容：ミジンコや水生昆虫など、田んぼをささえる小さな生き物を観察します。

19/木

かわはく体験教室「伝統漁法体験」

時間：①10:00~12:00 ②13:30~15:30

定員：午前・午後各回20名 ☑

内容：立ち込み釣りや投網など昔から行われていた漁法の体験です。

21/土

特別展「すみか〜身近なすみかを見てみよう〜」展示解説

時間：①11:30~ ②14:30~ (各回30分程度)

内容：特別展の展示解説をします。

### 9月

9/25/土~11/23/火・祝

秋期企画展「秩父を散歩しませんか？  
〜神社仏閣に地形と石を訪ねる〜」

4/土

かわはく体験教室「ジュズダマであそぼう」

時間：13:30~15:30 定員：15名 ☑

内容：ジュズダマってどんな植物？ジュズダマを使ってキーホルダーを作ります。

5/日

かわはく研究室「年輪を調べてみよう」

時間：13:30~15:30

内容：木の年輪はどうしてできるのか。年輪を見ると、いろいろなことがわかります。木を切らないで樹齢を調べる方法もあります。

11/土

かわはく体験教室「泥染めに挑戦」

時間：13:30~15:30 定員：15名程度 ☑

内容：土を媒染剤にして布を染めます。また、赤い土をすりこんで染める方法も試します。

12/日

かがくかい「科学かい〜かがく?! いくがが!」

時間：①11:00~ ②13:00~

(各回45分程度・午前午後同一内容) 定員：各回親子6組程度 ☑  
内容：ポートはどうして水に浮くの? どうして進むの? お話と実験で、わくわくランドにちなんだ水の不思議を考えてみよう。

19/日

かわはく研究室「土の標本「モノリス」から学ぼう」

時間：13:30~15:30

内容：動物や植物に標本があるように土にも「モノリス」とよばれる標本があります。様々な標本から、土について学びます。

20/月・祝

かわはくであそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」

時間：13:30~15:30

内容：お月見にまつわるクイズラリーをします。

25/土

秋期企画展「秩父を散歩しませんか？

〜神社仏閣に地形と石を訪ねる〜」展示解説

時間：①11:30~ ②14:30~ (各回30分程度)

内容：秋期企画展の展示解説をします。

### 10月

10/23/土~10/31/日

(イベントの実施は期間中の土・日のみ)

かわはくまつり「かわはくハロウィンウィーク」

時間：10:00~16:00

内容：ハロウィンを楽しむイベントを館内各所で行います。

3/日

荒川ゼミナール「〜川を知るウォーキング〜

「堤外地になつた場所を歩く」

時間：10:00~16:00 定員：20名 ☑

内容：荒川の河川改修を契機に堤外地となり、その結果廃村となつた地域や、現在の河川改修工事の現状について見学します。

16/土

かわはく体験教室「土の中の生き物を探せ!」

時間：13:30~15:30 定員：15名 ☑

内容：ミミズやヤスデ、トビムシといった土の中の生き物を探して観察します。

17/日

かわはく研究室「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう①」

時間：①10:00~11:00 ②11:00~12:00

③13:30~14:30 ④14:30~15:30

内容：学芸員と一緒にかわはくの周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史等について学びます。学習する内容は参加者の皆さんに選んでいただきます。

23/土

秋期企画展開連イベント「秩父礼所&ジオサイト巡り」

時間：10:00~15:00 定員：15名 ☑

内容：企画展で紹介した場所を解説しながら歩きます。

24/日

秋期企画展「秩父を散歩しませんか？

〜神社仏閣に地形と石を訪ねる〜」展示解説

時間：①11:30~ ②14:30~ (各回30分程度)

内容：秋季企画展の展示解説をします。

### 11月

14/日

かわはく秋まつり

時間：10:00~16:00

内容：楽しいイベントを用意しています。

3/水・祝

荒川ゼミナール「

〜川を知るウォーキング〜「新河岸川を歩く2」

時間：10:00~16:00 (雨天順延) 定員：20名 ☑

内容：河川改修前後の新河岸川の流路や寺尾地区がなぜ水害にあいやすいのか、歩きながら学びます。

6/土

かわはく体験教室「砂金採り教室」

時間：13:30~15:30 定員：20名 ☑

内容：かつては砂金が採れた荒川で、砂金採りにチャレンジします。運が良ければ、砂金が採れるかもしれません。(雨天時は室内でパンニング体験※おみやげはありません)

7/日

かわはく寄席「川にまつわる落語会」

時間：①11:00~ ②13:30~ 定員：40名 ☑

内容：午前は子ども向き、午後は大人向きの落語会を行います。

10/水

荒川ゼミナールII

〜荒川の源流を訪ねる〜「浦山ダムと紅葉の低山歩き」

時間：10:00~15:00 (雨天順延) 定員：20名 ☑

内容：浦山ダムの内部を見学し、併せて橋立鍾乳洞など周辺の自然や文化財について散策しながら学びます。

14/日

かわはくであそぼう・まなぼう「木の実あそび」

時間：①10:00~12:00 ②13:00~15:00

内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロベエづくりを体験します。

20/土

障がい者ウィークイベント

映画会「ちいさな英雄〜カニとタマゴと透明人間〜」

時間：①11:00~ ②13:30~ (上映時間60分程度)

内容：スタジオポノック作品「ちいさな英雄〜カニとタマゴと透明人間〜」を上映します。

21/日

障がい者ウィークイベント

デフ・パペットシアター・ひとみ人形劇「一寸法師」

時間：①11:00~ ②13:30~

内容：デフ・パペットシアター・ひとみは耳の聞こえない人と聞こえる人が一緒に活動している人形劇団です。手話を交えた人形劇「一寸法師」を上映します。

28/日

かわはく研究室「土のすきまを調べよう」

時間：13:30~15:30

内容：土の中のすきまを調べる簡単な実験を行い、ふかふかな土の秘密をさぐります。

ホームページでも紹介しています!

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☑印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日(午前中)までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。

彩の国  
埼玉県

2021年7月24日発行

